

# 本書の構成

## 電気泳動のフローチャート

ゲルを用いた電気泳動実験の全体像を眺めてみましょう。疑問点を目次に従って読み進めてもよいですし、以下のフローチャートで示す手順に従って、疑問に思っている（うまくできない）ステップから読み進めてもよいでしょう。

サンプルの  
アプライの様子

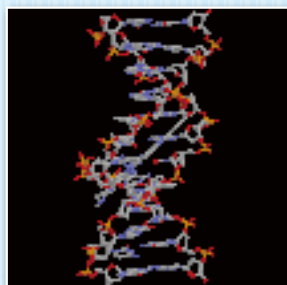


プロットイング  
操作中の様子

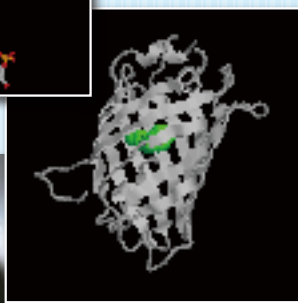


### 1章 電気泳動の原理手法の選択

さまざまな電気泳動法から調べたい試料の種類、ターゲットの分子種、分離分析か分取か、など目的に応じた実験方法を選択します



DNAの構造



タンパク質の構造



試料

### 2章 電気泳動の準備

泳動装置、試薬、分子量マーカーなどを用意します

### 3章 電気泳動用緩衝液・ゲルの調製

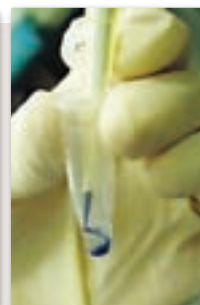
ゲルや緩衝液を用意します

### 4章 サンプル調製

電気泳動サンプルの変性処理やローディングバッファーと混合します



ゲルの調製



サンプルの調製

### 4章 電気泳動実施

サンプル、分子量マーカーをゲルに添加し、電流を流します

### 6章 汎用的な検出法

CBB染色(タンパク質), 銀染色(タンパク質, DNA), EtBr染色(DNA/RNA)は、汎用性の高い検出方法です



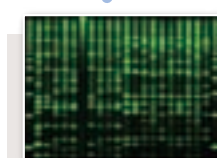
CBB染色



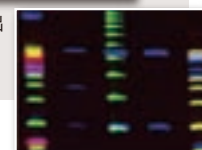
銀染色

### 7章 高感度検出法

蛍光検出, RI検出などでタンパク質, DNA/RNAを、高感度検出します

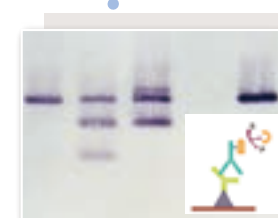


蛍光検出



### 5章 標的特異的な検出

タンパク質: 免疫化学的な検出  
DNA/RNA: ハイブリダイゼーション



免疫化学的な検出

### 5章 プロットイング

電気泳動した分子を膜に転写して固定し、特異的な解析を行います